優先度評価表

	評価項目	評価基準		詳細
1	視認性	A	10	道路の両側に障害物があり、車両を確認することが難しい
		B	5	道路の両側に障害物はないが、車両を確認ことが難しい
		C	3	道路の両側に障害物はあるが、通行車両に支障のない範囲で確認はできる
		D	1	道路の両側にも障害物もないため、確認はできる
2	要望箇所の交通量	A	10	確認する道路は幹線道路で、利用者の多い場所である
		B	5	確認する道路は生活道路ではあるが、利用者が多い場所である
		C	3	生活道路であり、比較的交通量も多い場所である
		D	1	生活道路の比較的交通量の少ない場所である
3	車両以外の状況	A	10	確認する道路が幹線道路で、歩道を利用する者も多く確認が難し場所である
		B	5	生活道路ではあるが、比較的通行するものが多い場所である
		C	3	確認する道路が幹線道路ではあるが、歩行者の利用が比較的少ないと考えらる場所である
		D	1	利用が少ないと考えられる場所である
4	要望箇所からの確認	A	10	幹線道路であり通行が多いことから、確認が難しい場所である
		B	5	生活道路の比較的通行が多と考えられるため、確認が難しい場所である
		C	3	歩道を利用する者の確認は難しいが、車両の確認はできる場所である
		D	1	生活道路の比較的通行が少なく、確認も可能と思われる場所である
5	要望箇所の事故の危険性	A	10	通行する車両が多く場所であり、危険性は高いと考えられる
		B	5	比較的に通行が多い場所であり、危険性はあると考えられる
		C	3	比較的に通行が多い場所であり、危険性はあると考えられる
		D	1	通行は少ないが、危険性をゼロとする考えは難しい
6	通学路としての整備	A	10	通学路であり、道路幅も狭く児童の確認が難しい場所である
		B	5	通学路ではあるが、視界が確保されている場所である
		C	3	通学路ではないが、道路幅が狭く人の確認は難しい場所である
		D	1	通学路でもなく、視界としては確保されている場所である
7	規制による抑制	A	10	一時停止等の規制が無いため、危険性が考えられる場所である
		B	5	一時停止等の規制はあるが、危険性が考えられる場所である
		C	3	一時停止等の規制もなく、視界も比較的広い場所である
		D	1	一時停止等の規制はあるが、比較的視界の確保されている場所である
8	見解	A	30	場所的には交通量が多く確認も難しい、設置は必要と考える
		B	15	要望箇所として必要性も理解するが、設置する優先度の考え方としては低い場所
		C	7	比較的確認が難しい場所ではなく、今年度の状況に応じて判断すべき場所
		D	1	安全性も確保できるため、今後の状況の変更に応じて対応すべき場所

	評価区分		評価基準
優先度	高	優先順位が高い	70点～100点
	中	優先順位は中位	40点～69点
	低	優先順位が低い	39点以下